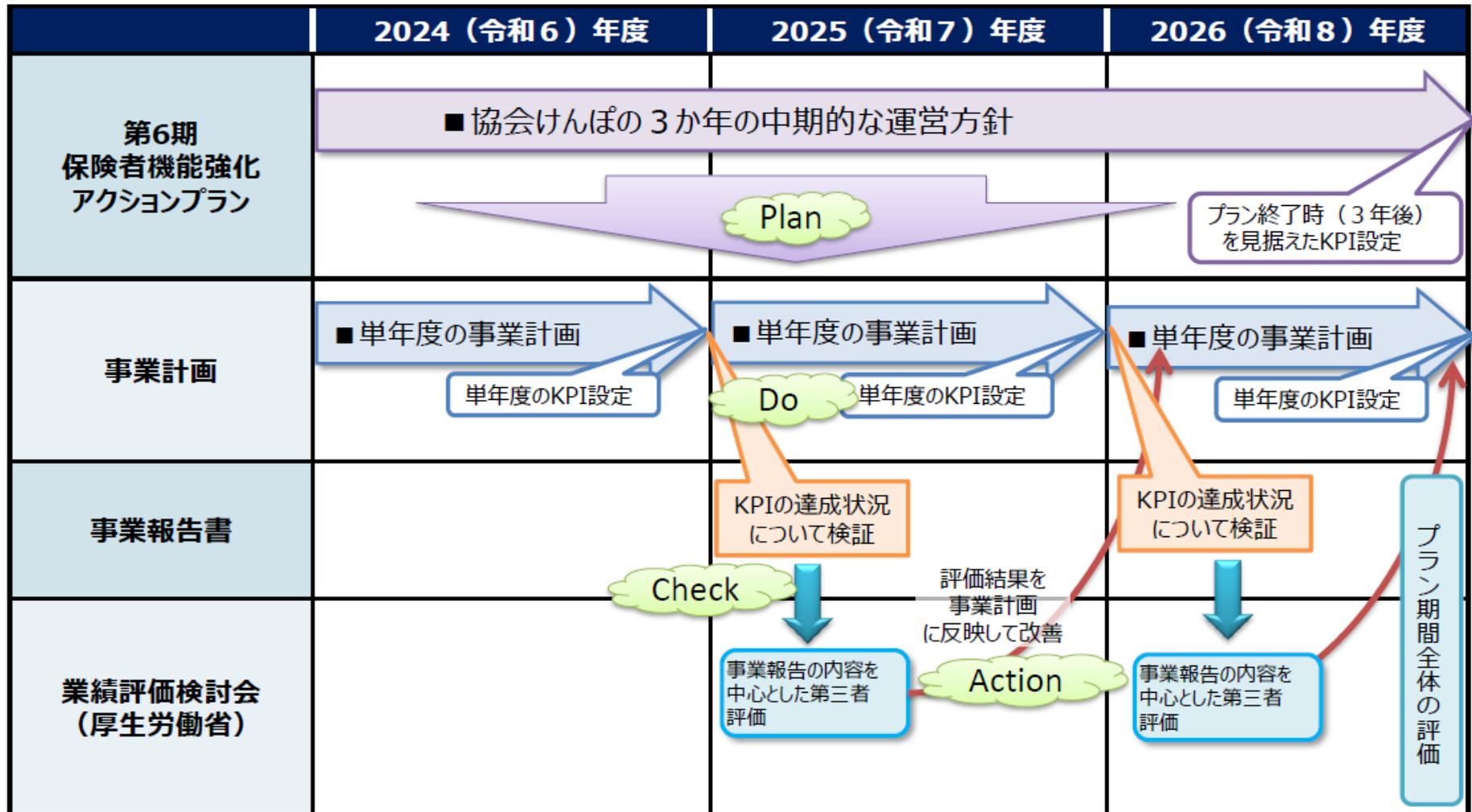


令和6年度支部事業計画及び予算の 検討について

参考：保険者機能強化アクションプランに係るPDCAサイクル

- 第6期保険者機能強化アクションプランにKPIを設定するとともに、各年度の事業計画において、単年度ごとのKPIを設定し、毎年度KPIの達成状況を踏まえた改善を行う。



第6期保険者機能強化アクションプランのコンセプト

第6期保険者機能強化アクションプランの位置づけ

- 第6期保険者機能強化アクションプラン（2024年度～2026年度）については、加入者の健康度の向上及び医療費の適正化を目指して、第5期に引き続き本部機能や本部・支部間の連携の強化を図りつつ、
- ①基盤的保険者機能の盤石化：業務品質の向上、業務改革の実践及びICT化の推進による一層の業務効率化
 - ②戦略的保険者機能の一層の発揮：データ分析を通じて得られたエビデンスに基づき、「顔の見える地域ネットワーク」を活用した連携・協力による事業展開の充実・強化
 - ③保険者機能強化を支える組織・運営体制等の整備：新たな業務のあり方を踏まえた適正な人員配置、内部統制・リスク管理の強化及びシステムの安定運用、統一的・戦略的な本部・支部広報の実施
- を通じて、協会の財政状況を念頭に置きつつ、協会に期待されている保険者としての役割の最大限の発揮に向けて、将来にわたる礎を築くことを目指す。

第6期の事業運営の3つの柱

基盤的保険者機能の盤石化

- 協会は、保険者として健全な財政運営を行うとともに、協会や医療保険制度に対する信頼の維持・向上を図るといった基本的な役割を果たす必要がある。
- 基盤的保険者機能の盤石化に向け、業務改革の実践（標準化・効率化・簡素化の徹底、生産性の向上、職員の意識改革の促進）による、加入者サービスの向上や医療費の適正化の促進、ICT化の推進による加入者の利便性向上を図る。

戦略的保険者機能の一層の発揮

- 加入者の健康度の向上、医療の質や効率性の向上及び医療費等の適正化を推進するためには、戦略的保険者機能を一層発揮することが必要である。
- このため、①データ分析に基づく課題抽出、課題解決に向けた事業企画・実施・検証を行うこと、②分析成果を最大限活かすため、支部幹部職員が関係団体と定期的な意見交換等を行うことにより「顔の見える地域ネットワーク」を重層的に構築し、当該ネットワークを活用しながら地域・職域における健康づくり等の取組や医療保険制度に係る広報・意見発信に取り組む。

保険者機能の強化を支える組織・運営体制等の整備

- 保険者機能の更なる強化・発揮のため、人材育成、人事制度の適正運用、システム運用による業務効率化等を踏まえた人員の最適配分等を通じて、協会全体の組織基盤の整備・強化を図るとともに、内部統制・リスク管理を強化し、協会業務の適正を確保する。
- システムについて、安定稼働を行いつつ、制度改正等に係る適切な対応や、中長期の業務を見据えた対応の実現を図る。
- 「広報基本方針」及び「広報計画」の策定を通じて、統一的・計画的な協会広報を実施する。

第5期

第6期

I. 近年の協会けんぽをめぐる動向

II. 第5期における協会けんぽの基本理念等について

III. 具体的事項

(1) 基盤的保険者機能

- ① 健全な財政運営
- ② サービス水準の向上 (KPI)
- ③ 限度額適用認定証の利用促進 → 令和5年4月からのオンライン資格確認義務化に伴い廃止とする
- ④ 現金給付の適正化の推進
- ⑤ 効果的なしせつ内容点検の推進 (KPI)
- ⑥ 柔道整復師診療報酬の照会業務の強化 (KPI)
- ⑦ あんまマッサージ指圧・はりきゅう師療養費の審査業務の適正化の推進 } 現金給付等の適正化の推進に統合する
- ⑧ 返納金債権発生防止のための保険証回収強化、債権回収意識の推進 (KPI)
- ⑨ 被扶養者資格の再確認の徹底 (KPI) 現金給付等の適正化の推進に統合する
- ⑩ オンライン資格確認の円滑な実施 (KPI) → オンライン資格確認システムのみならず広く医療DXや電子申請等に対応できるように項目名を見直す
- ⑪ 業務改革の推進

(2) 戦略的保険者機能

- ① 第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施
 - i) 特定健診実施率・事業者健診データ取得率等の向上 (KPI)
 - ii) 特定保健指導の実施率及び質の向上 (KPI)
 - iii) 重症化予防対策の推進 (KPI)
 - iv) 健康経営（コラポヘルス）の推進 (KPI)
- ② 広報活動や健康保険受給者を通じた加入者等の理解促進 (KPI) 保険者機能を支える基盤強化として広報基本方針等の策定も分離する
- ③ ジェネリック医薬品の使用促進 (KPI) 医療資源の適正使用の観点で再編とする
- ④ インセンティブ制度の実施及び検証
- ⑤ 支店で実施した好事例の全国展開
- ⑥ 地域の医療提供体制等への働きかけや医療保険制度の持続可能性の確保に向けた意見発信 (KPI)
- ⑦ 調査研究の推進 一調査研究の推進を内部事項と外部事項に分離する

(3) 組織・運営体制

- I) 人事・組織に関する取組
 - ① 人事制度の適正な運用と標準人員に基づく人員配属
 - ② 人事評価制度の適正な運用
 - ③ OJTを中心とした人材育成
 - ④ 本部機能及び本部支店間の連携の強化 → アクションプラン全体を貫く理念のため、基本理念等に明記
 - ⑤ 支店業績評価を通じた支店の取組の底上げ するとともに、(2) ②③④、(3) 1) ②等に明記する
- II) 内部統制に関する取組
 - ① 内部統制の強化
 - ② リスク管理 一リスク管理から個人情報の保護を分離し、単独で項目建てする
 - ③ コンプライアンスの徹底 また、項目名を災害対応等に変更する
- III) その他の取組
 - ① 費用対効果を踏まえたコスト削減等 (KPI)
 - ② 次期システム構想の実現等 一システム刷新後の対応を記載する方向で見直しする

I. 近年の協会けんぽをめぐる動向

II. 第6期における協会けんぽの基本理念等について

III. 具体的事項

(1) 基盤的保険者機能の盤石化

- I) 健全な財政運営
- II) 業務品質の向上と業務改革の実践
 - ① 業務処理体制の強化と業務改革の徹底
 - ② サービス水準の向上 (KPI)
 - ③ 現金給付等の適正化の推進
 - ④ しせつ内容点検の適度向上 (KPI)
 - ⑤ 債権管理・回収と返納金債権の発生防止の強化 (KPI)
- III) ICT化の推進

(2) 戦略的保険者機能の一層の発揮

- I) データ分析に基づく事業推進
 - ① 本部・支店における医療費・健診データ等の分析結果の活用及び分析能力の向上
 - ② 外部有識者を活用した調査研究成果の活用
 - ③ 好事例の積極発信
- II) 健康づくり
 - ① 保健事業の一層の推進
 - ② 特定健診実施率・事業者健診データ取得率等の向上 (KPI)
 - ③ 特定保健指導実施率及び質の向上 (KPI)
 - ④ 重症化予防対策の推進 (KPI)
 - ⑤ コラポヘルスの推進 (KPI)
- III) 医療費適正化
 - ① 医療資源の適正使用 (KPI)
 - ② 地域の医療提供体制等へのデータを活用した意見発信
 - ③ インセンティブ制度の実施及び検証
- IV) 広報活動や顔の見える地域ネットワークを通じた加入者等の理解促進 (KPI)

(3) 保険者機能の強化を支える組織・運営体制等の整備

- I) 人事・組織
 - ① 人事制度の適正な運用
 - ② 新たな業務の在り方を踏まえた適正な人員配属
 - ③ OJTを中心とした人材育成
 - ④ 働き方改革の推進
 - ⑤ 支店業績評価を通じた支店の取組の向上
- II) 内部統制等
 - ① 内部統制の強化
 - ② 個人情報の保護
 - ③ 法令等規程の遵守（コンプライアンス）の徹底
 - ④ 災害等の対応
 - ⑤ 費用対効果を踏まえたコスト削減等 (KPI)
- III) 広報基本方針・広報計画の策定
- IV) システム整備
 - ① 協会システムの安定運用
 - ② 制度改正等に係る適切なシステム対応
 - ③ 業務効率化を目指したシステムの更なる機能向上
 - ④ 中長期を見据えたシステム対応の実現

第6期保険者機能強化アクションプランにおける主な取組

(1) 基盤的保険者機能の盤石化

- 中長期的な視点による健全な財政運営
- 業務改革の実践と業務品質の向上
- マイナンバーカードの健康保険証利用の推進、制度に係る広報の実施及び資格確認書の円滑な発行【新規】
- 2025年度中に電子申請を導入し、事務処理の効率化を推進【新規】

(2) 戦略的保険者機能の一層の発揮

<データ分析に基づく事業実施、好事例の横展開>

- 医療費・健診データ等を活用した地域差等の分析
- 国への政策提言、パイロット事業等の実施など、外部有識者の知見を活用した調査研究成果の活用【拡充】
- 「保険者努力重点支援プロジェクト」の実施及び実施を通じ蓄積した分析や事業企画等の手法の横展開【新規】

<特定健診・特定保健指導の推進等>

- 2023年度に実施した健診等の自己負担の軽減に加え、2024年度から付加健診の対象年齢を拡大【拡充】
- 標準モデルに沿った特定保健指導の利用案内（指導機会の確保を含む）の徹底【拡充】
- 健診当日や健診結果提供時における効果的な利用案内についてのパイロット事業等の成果を踏まえた全国展開【新規】
- 成果を重視した特定保健指導の推進【拡充】

<重症化予防対策の推進>

- 特定健診を受診した被扶養者や事業者健診データを取得した者等への受診勧奨拡大【新規】
- 外部有識者の研究成果を踏まえた糖尿病性腎症に対する受診勧奨の実施【新規】

<コラボヘルスの推進>

- 健康宣言のプロセス及びコンテンツの標準化
- データ分析に基づく地域や業態、年代別などの健康課題（喫煙や運動、メンタルヘルス対策とも関連する睡眠など）に着目した実効性のあるポピュレーションアプローチの実施【拡充】
- 産業保健における取組と連携したメンタルヘルス対策の推進【拡充】

<医療資源の適正使用、意見発信>

- 医療機関等への働きかけを中心としたバイオシミラーの使用促進【新規】
- 効果が乏しいというエビデンスがあることが指摘されている医療及び医療資源の投入量に地域差がある医療に係る医療関係者等への周知・啓発【新規】
- 協会のデータを活用したエビデンスに基づく効果的な意見発信の実施

(3) 保険者機能の強化を支える組織・運営体制の整備

- 新たな業務の在り方を踏まえた適正な人員配置【新規】
- 仕事と生活の両立支援をはじめとした働き方改革の推進【新規】
- 広報基本方針・広報計画の策定【新規】
- 具体的なICT活用の実現や新たな環境の変化への対応等、中長期を見据えたシステム対応の実現【拡充】

富山支部 現状評価・課題・重点施策（案）

令和6年度 戦略的保険者機能に関する 現状評価シート〔富山支部〕

<「現状評価シート」の使用目的>

自支部の課題を抽出するため、適用情報、医療費情報及び健診情報の観点から、自支部の現状を整理、評価する際に活用いただくためのシートです。

<「現状評価シート」で出来ること>

- 自支部の適用情報、医療費情報及び健診情報の主要項目の過去3か年分の時系列データを表形式で見ることができます。
- 医療費情報（1人当たり医療費、受診率、疾病分類別1人当たり医療費、業態別1人当たり医療費）及び健診情報（健診結果、問診結果）について、全国平均と比較した場合の自支部の地域差指数-1（※）を、表形式及びグラフ形式で視覚的に捉えることができます。
- 1人当たり医療費及び受診率、健診結果及び問診結果については、全国平均と比較した場合の自支部の市区町村別地域差指数-1（※）の高低を見ることができます。

（※）地域差指数-1とは、医療費等の地域差を表す指標として、1人当たり医療費等について、年齢調整し、全国平均を0として指数化したものであり、0より大きい数値であれば、全国平均より高い水準にあり、0より小さい数値であれば、全国平均より低い水準にあることを示しています。



○富山支部の課題

1	◎代謝（血糖）リスク保有割合が、全国平均を上回って高い ※メタボリスク保有者が多い一つの要因
2	◎運動習慣の要改善者割合が、全国平均を上回る（ワースト3位）
3	◎睡眠で休養が取れていない者の割合が、全国平均を大きく上回る（4年連続ワースト1位）

富山支部 現状評価・課題・重点施策（案）

○重点施策シート①

①課題

※課題シートより転記

◎代謝（血糖）リスク保有率が全国平均を上回って高い
・業態別のリスク保有者数では「総合工事業」「道路貨物運送業」「機械器具製造業」が多い傾向

②これまでの取組と評価

◎これまでの取組と結果（第2期データヘルス計画より）
・第2期データヘルス計画の中位目標として「空腹時血糖者 $\geq 100\text{mg/dl}$ （又はHbA1c $\geq 5.6\%$ ）を全国平均以下にする」ことを掲げ、特定保健指導の実施率向上、高血糖者に対する重症化予防、健康企業宣言の事業所拡大等により改善を図ってきたところ。

☞ 特定保健指導実施率（被保険者） R2:26.5% → R3:33.8% → R4:32.1%

☞ 健康企業宣言事業所数 R2:502社 → R3:648社 → R4:741社

◎取組に関する評価

・令和2年度から3年度の単年度において改善した者は、空腹時血糖7,880人（20.2%）、HbA1cが3,848人（11.0%）であり、特定保健指導や高血糖未治療者の医療機関受診を促進した効果によるものと推察される。
・しかしながら一方で、新たな高血糖者が改善者以上に増加（空腹時血糖：9,691人、HbA1c：5,173人増加）したことにより、結果として全国平均を下回るという目標は達成できていない。

③今後の重点施策とその検証方法

◎代謝リスク改善対策（これまでの施策の強化と新たな施策）

・これまでのハイリスクアプローチ（特定保健指導、重症化予防）をさらに強化するとともに、新たな代謝リスク者を増加させない取り組みが必要

・新たな高血糖者の増加要因の分析 → ハイリスクアプローチの対象となっていない未対応域の対象者に対する介入 → すべての加入者に対する危機意識の醸成（ポピュレーションアプローチ）等の具体的な施策を検討（アウトカム評価の導入も含む）

◎検証方法

・代謝リスク保有者の推移等により効果を検証する

富山支部 現状評価・課題・重点施策（案）

○重点施策シート②

①課題

※課題シートより転記

◎運動習慣の要改善者割合が、全国平均を上回る(ワースト3位)

②これまでの取組と評価

◎これまでの取組と結果

- ・とやま健康企業宣言の宣言事業所に対し、運動習慣の確保(ラジオ体操の実施、カロリーステッカーの配布等)について促進を図っている。
- ・睡眠で休養が取れない者の割合が高いことと合わせて、運動習慣の要改善者が多いことも周知・広報。

◎取組に関する評価

- ・運動習慣の改善に対して、具体的な対策や効果は発揮できていない。

③今後の重点施策とその検証方法

◎運動習慣の改善対策(案)

- ・運動意欲の向上を図るため、県のウォーキングアプリとのタイアップを計画
- ・運動機会の確保を図るため、運動イベントの開催も検討

◎検証方法

- ・健診結果(スコアリングレポート)等から、運動習慣の要改善者数の減少率(改善率)等により、効果を検証する

富山支部 現状評価・課題・重点施策（案）

○重点施策シート③	
①課題 ※課題シートより転記	◎睡眠で休養が取れていない者の割合が、全国平均を大きく上回る(4年連続ワースト1位) ・睡眠と関連のある「運動習慣要改善者の割合」も、全国平均を上回っている
②これまでの取組と評価	◎これまでの取組と結果 ・令和3年度においては、県と共同分析を実施し、市町村別、性別、年齢階級別等の偏りを調査した。県西部域への偏り等を把握したため、分析結果のニュースリリース、特設ページ(LP)の作成、バナー広告やYouTubeの動画広告を実施。特設ページ上でアンケートを実施し、意識変容を確認(睡眠不足者731人中689人、運動不足者877人中832人に意識の変化が見られた) ・令和4年度においては、睡眠習慣に関する加入者調査(約3万人を対象)を実施し、「睡眠時間と余暇時間の確保が睡眠の質に影響があること」が示唆され、ニュースリリースを実施。 ・令和5年度においては、睡眠の質に関する加入者調査を実施予定。また、県との共催によるシンポジウムを開催予定。 ◎取組に関する評価 ・睡眠の質が低いことに対してメディア等でも大きく取り上げられ、県においてもキャンペーンを実施するなど大きな反響を得ている。なお、睡眠に関する他県のデータが無いことから、なぜ富山の睡眠の質が悪いのか要因分析は困難である。
③今後の重点施策とその検証方法	◎睡眠の質の改善対策 ・県との共同事業やメディアを活用して「眠りの質を改善するためのポイント」等の周知・啓発に取り組む ◎検証方法 ・健診結果(スコアリングレポート)等から、睡眠習慣の要改善者数の減少率(改善率)等により、効果を検証する

<参考> 令和5年度支部保険者機能強化予算について

- ① メディアの活用等による広報の強化
- ② 特定健診・特定保健指導を始めとする保健事業の拡充
- ③ これまでの取組の継続・強化

1) 令和5年度の主な取組について

※詳細は参考資料3参照

- 上記の視点を踏まえ、以下の取組を実施する。
 - ジェネリック医薬品の使用促進【③】
 - 多剤服用者への介入【③】
 - 特定保健指導の更なる推進【②】
 - 前年度特定保健指導対象者向け健診前勧奨【②, ③】
 - 重症化予防対策の推進【①, ②, ③】
 - 事業主とのコラボヘルス（とやま健康企業宣言）【①, ②, ③】
 - 睡眠習慣の改善に向けた取り組み【①, ③】

2) 令和5年度の支部保険者機能強化予算額

- 医療費適正化等予算（6,474千円）
 - ※ 広報や意見発信、ジェネリック医薬品の使用促進等の医療費適正化事業に充てられる予算枠
- 保健事業予算（42,963千円）
 - ※ データヘルス計画や受診勧奨対策、重症化予防対策等の保健事業に充てられる予算枠